

つきたい力

- ・自ら課題を見つけ、見通しをもって学習に向かい続ける力
- ・相手や目的などを意識して、自分の考えをまとめたり伝えたりする力
- ・他者と交流することで、自分の考えを深める力

取組みの概要・ポイント

- 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
- 言葉の力が高まる環境づくり

取組みの概要⇒



具体的な取組みの内容① 授業改善

☆校内研究・教科部会

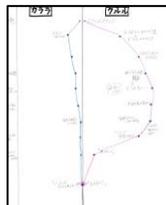
昨年度までの低・中・高学年での研究体制から、研究したい教科（国語・社会・生活・総合）でグループを作って研究を進める教科部会体制に変えた。月1回教科部会を行い、その内容を職員会議で全体に共有した。教科部会に研究体制を変更したことで、学年間の学びのつながりを意識した研究をすすめることができた。



☆授業改善

合言葉は、「やってみよう！」教師自身が**楽しみながら**授業を考えていくことを大切に、授業改善に取り組んだ。

サーカスのライオン
登場人物・時・場所などの
キーワードを見つけ、色分けして線を引き、じんざの気持ちの変化を話し合った。



ゼロ弾きのゴーシュ
宮沢賢治作品のおもしろさのしかけを読み解き、賢治作品の共通点にせまった。



取組み資料

風切るつばさ
場面の移り変わりや人物の相互関係の心の距離から考える「**距離感ライン**」を使って物語にせまった。

具体的な取組みの内容② 環境づくり

☆掲示板の活用⇒いろいろな言葉を知ろう

季節ごとの空の様子や雨の呼び方、天気言葉などを紹介。



息白し
寒い日、はいた息が白く見えること。息の中の水蒸気が冷えて小さな水のつぶになり、白く見える。

☆言葉に特化した図書館クイズ⇒本も読んで調べてみよう

学校司書と協力し、毎月言葉に関連したクイズを作成。「オノマトペクイズ」や「スポーツの秋・漢字クイズ」、「四字熟語クイズ」など。

外来語クイズ
もともとどこの国の言葉だったか調べよう。

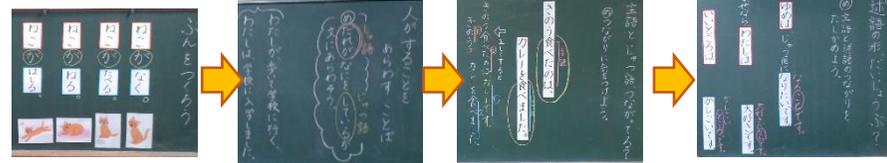


図書資料や辞典を参考にしよう!!

☆言葉の学習⇒論理的に自分の考えが表現できるようになろう

1～4年生は週1回「言葉の学習」の時間を設定。言葉の特徴や使い方などを系統立てて指導

(例)



→主語と述語のつながりを意識するように指導。

取組みを通しての子どもの変容

- ・これまでの国語科の学習は、場面ごとに読み進めていく「子どもの思考を止めてしまう」流れだった。今年度より、物語全体を一つのまとまりとして読み進めたり、「心情曲線」や「距離感ライン」を用いることで、登場人物の気持ちの変化を、場面の移り変わりや人物の相互関係の心の距離から考えることができるようになってきた。
- ・言葉の学習を週1回実施したことで、接続詞や修飾語などを意識して書くなど、目的に合わせて言葉を選び、表現することができるようになってきた。